

高知県感染症発生動向調査（週報）

2018年 第19週 （5月7日～5月13日）

★お知らせ

○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は、第18週の4.07から第19週には4.93と増加しています。県全域から報告があり、須崎、幡多で急増、中央西では増加しています。

基幹定点からの感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）が1例報告されています。

定点医療機関からのホット情報では、ノロウイルス5例、ロタウイルス3例、細菌のカンピロバクター属菌や病原性大腸菌を原因とする胃腸炎4例の報告があります。

学校等欠席者・感染症情報システム※でも20例の報告があることから引き続き注意が必要です。

病原体検出情報では臨床診断名感染性胃腸炎で第15週に高知市から搬入された検体から Adenovirus 41 が1例、第17週に幡多から搬入された検体から Norovirus GII NT が1例、須崎から搬入された検体から Sapovirus genogroup unknown が1例、第19週に幡多から搬入された検体から Norovirus GII NT が1例検出されています。加えて、須崎から搬入された検体（臨床診断名はなし）から Norovirus GII NT が1例検出されています。

乳幼児や高齢者、体力の低下している方は、下痢、嘔吐などで脱水症状を起こすことがありますので、早めに医療機関を受診してください。ノロウイルス性胃腸炎は、通常1週間以内に回復しますが、症状消失後も1週間程度、長いときには1ヶ月程度便中にウイルスの排出が続くことがあります。保育園や幼稚園、学校や社会福祉施設など集団生活の場で大規模な流行となることもあることから注意が必要です。

<予防方法> 感染予防の基本は手洗いです

人への感染経路は、主に経口（食品、糞便）です。食品を除けば大半が手に付着したウイルスが口に入って感染します。感染防止策は「手洗い」が基本ですので帰宅時・調理前・食事前・トイレの後に石けんを使ってよく手を洗いましょう。また、感染した人の便や吐物には、大量のウイルスが含まれていますので直接触れないようにし、次亜塩素酸ナトリウムまたは家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤の使用を確認した上で使用し処理しましょう。（使い捨ての手袋やキッチンペーパーなどを使って処理しましょう。）また、調理をする場合は、十分加熱しましょう。

●厚生労働省 「ノロウイルスに関するQ&A」

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html

●衛生研究所 「高知県ノロウイルス対策マニュアル」

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/norovirus.html>

○咽頭結膜熱（プール熱）に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は、第18週の0.00から第19週は0.23と急増しています。幡多、須崎で急増し、幡多では注意報値をこえています。

咽頭結膜熱は、アデノウイルス感染による、発熱（38～39度）、のどの痛み、結膜炎を主症状とする小児に多い疾患です。例年5月中旬から下旬頃にかけて患者数が増加し始め、7月下旬から8月上旬をピークとする流行が見られる夏期の疾患で、プールを介して流行することが多いことから、「プール熱」とも呼ばれています。

<予防方法> 飛まつ感染または手指を介した接触感染です

- 1) 流行時には流水と石けんによる手洗い、うがいを励行しましょう。
- 2) 感染者との密接な接触は避けましょう。
- 3) タオル等は別のものを使いましょう。
- 4) プールからあがった時はシャワーをよく浴びましょう。

○百日咳に気を付けて！

第19週に百日咳の発生届けが高知市保健所管内から2例、須崎福祉保健所管内から4例報告されました。（先週週報のホット情報記載分も含む）2018年にはいって高知県内の百日咳の届出は合計75例となっています。

百日咳は、感染力が強く、咳やくしゃみなどによる飛沫感染や接触感染により感染します。そのため、比較的軽い症状の患者や感染しても症状が軽いため百日咳にかかったと気づかない大人から、重症化しやすいワクチン未接種の新生児や乳児へ感染することも考えられることから注意して下さい。

<予防方法> 飛沫感染予防には、手洗い、咳エチケットです

- ・生まれた直後から百日咳にかかる可能性があります。咳が続いている人は、百日咳の可能性も考えて、赤ちゃんに注意して接しましょう。
- ・外出時にはマスクを着用し、人混みはなるべくさけ、帰宅時には、手洗いを励行しましょう。
- ・定期予防接種があります。ワクチンは生後3ヶ月から接種可能なので、かかりつけ医と相談し、出来るだけ早く受けておくことをお勧めします。

●国立感染症研究所 百日咳 感染症法に基づく医師届出ガイドライン

https://www.niid.go.jp/niid/images/epi/pertussis/pertussis_guideline_180425.pdf

○麻疹（はしか）患者が増加中ですのでご注意ください！

2018年3月23日、沖縄県内を旅行中の台湾からの旅行客が麻疹と診断されたと報告がありました。以降、沖縄県内では麻疹患者の発生が続いています。また、沖縄県内で感染した方が、他の都道府県において報告されるなど、他県への広がりも報告されています。ゴールデンウィーク期間中等に流行している地域を旅行された方は、麻疹ウイルスの暴露を受けた可能性がありますのでご注意ください。

県民の皆様へお願い

- 1、麻疹は予防接種により感染リスクが少なくなる疾患です。定期接種の対象者は接種対象期間中にかかりつけ医に相談し、接種を受けることが重要です。
- 2、麻疹を疑う症状（発熱、咳、鼻汁、その後発疹等）があった場合は、必ず受診前に医療機関に連絡し、麻疹を疑う旨を伝えた後、医療機関の指示に従い受診し、周囲に感染を拡げないようにご注意ください。

各医療機関の皆様へお願い

- 1、発熱や発疹を呈する患者を診察した際は、麻疹の可能性も考慮し、渡航歴・旅行歴・麻疹含有ワクチンの接種歴・麻疹罹患歴を確認するとともに、感染拡大予防策の徹底をお願い致します。
- 2、麻疹（疑い例を含む）診断時には管轄の保健所又は福祉保健所までご連絡をお願い致します。

麻疹について

麻疹は空気感染する感染力の強いウイルス感染症です。

潜伏期間は10～12日間で、咳、鼻水、くしゃみ等の風邪様症状が出現、2～4日ほど続きます。その後、39度を超える高熱と発疹が出現します。発疹の出現する1日から2日前には頬の粘膜（口の中の頬の裏側）にやや隆起した1mm程度の白色の小さな斑点（コプリック斑）が出現します。合併症を引き起こさなければ、7～10日後には回復しますが、免疫力が低下するため、しばらくは他の感染症に罹りやすく、また、体力等が戻ってくるには1ヶ月程度を要することもあります。

沖縄県衛生研究所：

<http://www.pref.okinawa.lg.jp/site/hoken/eiken/kikaku/kansenjouhou/measles.html>

国立感染症研究所

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ma/measles.html>

風しん・麻疹（MR）ワクチン接種の考え方

https://www.niid.go.jp/niid/images/idsc/disease/measles/MRvaccine_20180417.pdf

※巻末の注目すべき感染症（国立感染症研究所 IDWR2018年第16号より）にも麻疹2018年第1～16週（2018年4月25日現在）を掲載しています。

※ 学校等欠席者・感染症情報システム：県内小中高等学校における疾病別患者数情報システム

咳エチケット

- ★ 咳やくしゃみなどの呼吸器症状がある方は、必ずマスクを着用しましょう。
- ★ 咳やくしゃみをするときは、ハンカチやティッシュで口や鼻を押さえ、ウイルスの飛散を防ぎましょう。
- ★ 使用したティッシュなどは、ゴミ箱に捨てましょう。
- ★ 咳やくしゃみをした後は、石鹸を使用して、よく手を洗いましょう。

☆山や草むらでの野外活動の際にはダニに注意

第19週に日本紅斑熱の発生届けの報告が安芸福祉保健所と高知市保健所から、各1例
重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の発生届けの報告が幡多福祉保健所から1例ありました。

日本紅斑熱やSFTS（重症熱性血小板減少症候群）は屋外に生息するダニの一種で、比較的大型（吸血前で3～4mm）のマダニが媒介する感染症です。

「マダニに咬まれないこと」がとても重要です。

マダニは、暖くなる春から秋にかけて活動が活発になります。人も野外での活動が多くなることから、マダニが媒介する感染症のリスクが高まります（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）。

【マダニに咬まれないために】

- 長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。
- マダニに対する虫除け剤（有効成分：ディートあるいはイカリジン）を活用しましょう。
- 地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。
- 活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。
- ペットの散歩等でマダニが付き、家に持ち込まれることがありますので注意しましょう。

国内で入手できる忌避剤の種類と特徴

忌避剤	有効成分含有率	分類	有効持続時間	注意事項	特徴
ディート	5～10%	防除用 医薬部外品	1～2時間	6ヶ月未満児 には 使用禁止	・独特の匂い ・べたつき感 ・プラスチック・化学繊維・皮革を 腐食することもある
	12%	防除用 医薬品	約3時間		
	高濃度製 剤 30%	防除用 医薬品	約6時間	12歳未満は 使用禁止	
イカリジン	5%	防除用 医薬部外品	～6時間		
	高濃度製 剤 15%	防除用 医薬品	6～8時間		

※国立感染症研究所「マダニ対策、今できること」より抜粋

※市販の虫除け剤（忌避剤）は、用法・用量・使用方法等をよく読んで使用してください。

野山に入ってからしばらくして（数日～数週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診して下さい。受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出て下さい。

SFTSはマダニからの感染が一般的ですが、最近の研究で、SFTSウイルスに感染し、発症している野生動物やイヌ・ネコなどの動物の血液からSFTSウイルスが検出されています。このことは、SFTSウイルスに感染している動物の血液などの体液に直接接触した場合、SFTSウイルスに感染することも否定できませんので、動物に触った後は必ず手洗いをするなどの感染予防に努めましょう。また、体調不良の動物と接触した後、発熱等の症状が出た時は、早めに医療機関を受診してください。その際には、動物との接触歴についても申し出て下さい。

- 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関するQ&A（厚生労働省）
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/sfts_qa.html
- 高知県衛生研究所 ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

★県内での感染症発生状況

インフルエンザ及び小児科定点把握感染症 (上位疾患)

↑ : 急増
 ↗ : 増加
 → : 横ばい
 ↘ : 減少
 ↓ : 急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
感染性胃腸炎	↗	4.93	須崎、幡多で急増、県全域、中央西で増加しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗	1.67	安芸で急減していますが、県全域、高知市、須崎、幡多、中央東で増加しています。
突発性発疹	↗	0.63	中央西、幡多で急減、須崎で減少していますが、中央東で急増、県全域、高知市で増加しています。
水痘	↗	0.30	中央東で急減していますが、幡多、中央西で急増、県全域、高知市で増加しています。
咽頭結膜熱	↑	0.23	県全域、幡多、須崎で急増し、幡多では注意報値を超えています。
手足口病	→	0.23	中央東で急減していますが、中央西、幡多で急増しています。

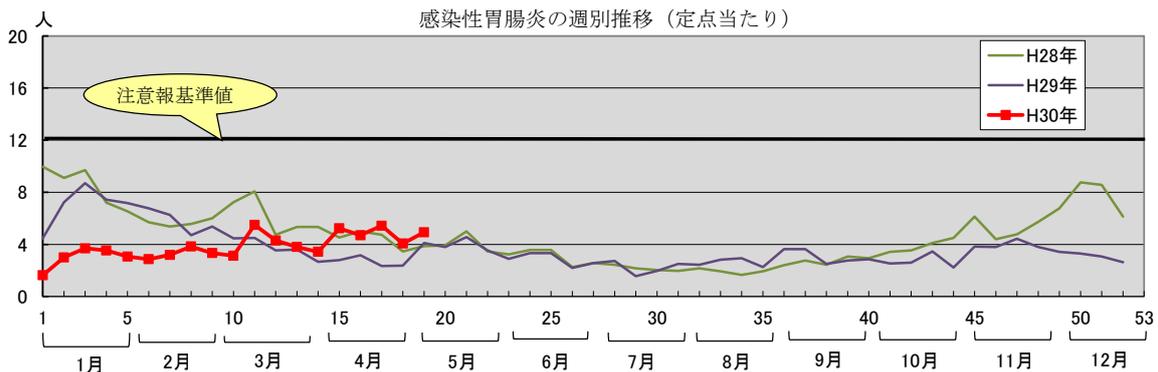
★地域別感染症発生状況



★気を付けて！

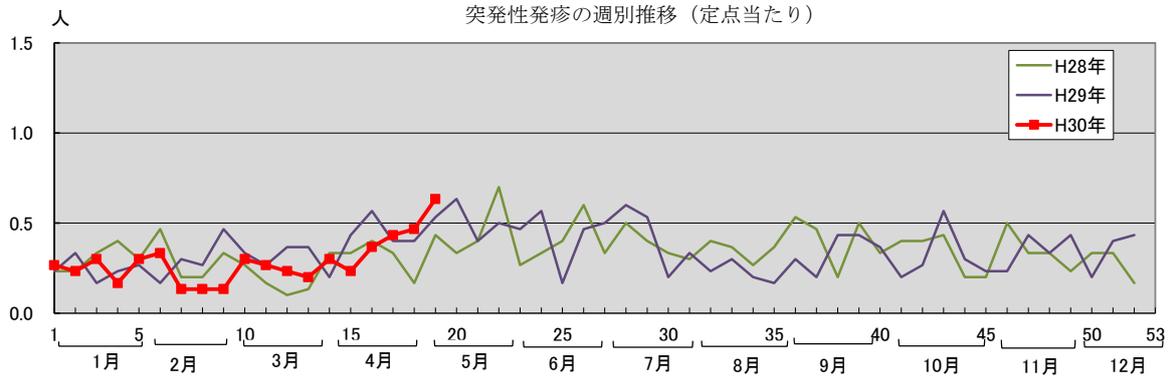
○感染性胃腸炎 第19週：4.93 (注意報値：12.00 警報値：20.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり 4.93 (前週：4.07) と増加しています。須崎 4.50 (前週：1.50) 幡多 3.40 (前週：0.80) で急増、中央西 4.67 (前週：3.33) で増加しています。



○突発性発疹 第19週：0.63 (注意報値：2.00 警報値：4.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり 0.63 (前週：0.47) と増加しています。中央西 0.33 (前週：0.67) 幡多 0.00 (前週：0.20) で急減、須崎 1.00 (前週：1.50) で減少していますが、中央東 0.86 (前週：0.29) で急増、高知市 0.82 (前週：0.45) で増加しています。



※グラフの途切れについて

H27-H28年は第53週までであるため、グラフ横軸に第53週を挿入しています。そのため、H28-H29年とH29-H30のグラフ第52週～第1週間に途切れが生じています。

★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
19	—	下痢	5	女	中央東	Astrovirus NT
19	—	38℃, 下痢, 嘔吐, 嘔気,	4	男	須崎	Norovirus GII NT
19	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気, 腹痛,	7	女	幡多	Norovirus GII NT
19	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	上気道炎,	14	女	高知市	Streptococcus pyogenes TB3264

前週以前に検出

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
14	上気道炎	39℃, 上気道炎,	1	女	中央東	Adenovirus 2
15	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気,	1	女	高知市	Adenovirus 41
15	—	40℃, 嘔吐, 嘔気,	1	女	中央東	Adenovirus 41
15	—	39℃,	3ヶ月	男	高知市	Herpes simplex virus 1
16	手足口病	39℃, 上気道炎, 発疹,	3ヶ月	女	幡多	Adenovirus 1
17	突発性発しん (不明発疹症)	40℃, 発疹,	1	女	須崎	Human herpes virus 6
17	不明発疹症	38℃, 発疹,	6ヶ月	女	須崎	Human herpes virus 6
17	—	発疹,	6	女	高知市	Human herpes virus 7
17	上気道炎	40℃, 上気道炎, 結膜炎,	1	男	中央東	Human metapneumovirus
17	感染性胃腸炎	39℃, 下痢,	4	男	幡多	Norovirus GII NT
17	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気,	2	男	須崎	Sapovirus genogroup unknown

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所	
2類	結核	1	44	50歳代 男	高知市	
		1		50歳代 男		
		1		70歳代 女		
4類	日本紅斑熱	1	3	70歳代 女	安芸	
		1		70歳代 男	高知市	
	重症熱性血小板減少症候群	1	1	70歳代 男	幡多	
5類	侵襲性肺炎球菌感染症	1	12	70歳代 女	高知市	
	梅毒	1		20歳代 女		
	百日咳		1	75	5~9歳 女	高知市
			1		10~14歳 女	
			1		5~9歳 女	
			1		5~9歳 女	
			1		10~14歳 女	

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
中央東	早明浦病院小児科	病原性大腸菌 O-1 検出 1 例 (13 歳女)
	高知大学医学部付属病院小児科	RS ウイルス細気管支炎 1 例 (1 ヶ月男)
高知市	高知医療センター小児科	インフルエンザ 1 例 (A 型 1 例)
	けら小児科・アレルギー科	アデノウイルス扁桃炎 5 例 (0 歳 3 人、1 歳 2 人) 病原性大腸菌 O-25 腸炎 1 例 (19 歳) ロタウイルス腸炎 1 例 (4 歳)
	細木病院小児科	ノロウイルス 4 例 (0 歳男、1 歳男、2 歳男、4 歳男) ロタウイルス 1 例 (7 歳男)
中央西	くぼたこどもクリニック	感染性胃腸炎 1 例 (6 歳：いの町)
須崎	もりはた小児科	感染性胃腸炎 4 例 (ロタ 1 例、ノロ 1 例、カンピロバクター 2 例) 帯状疱疹 1 例 (12 歳女) 百日咳 3 例 (5 歳 1 人、8 歳 2 人)
幡多	さたけ小児科	アデノウイルス 2 例 (2 歳女、4 歳男)
	幡多けんみん病院小児科	hMPV 陽性 3 例 (4 ヶ月男、1 歳女、2 歳女)
	渭南病院小児科	アデノウイルス咽頭炎 1 例 (3 歳女)

★全国情報

第16号 (4月16日～4月22日)

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核339例

3類感染症：細菌性赤痢1例、腸管出血性大腸菌感染症26例、パラチフス2例

4類感染症：E型肝炎13例、A型肝炎17例、オウム病2例、つつが虫病2例、デング熱2例、
日本紅斑熱6例、レジオネラ症13例

5類感染症：アメーバ赤痢7例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症23例、急性脳炎5例、
クロイツフェルト・ヤコブ病2例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症10例
後天性免疫不全症候群14例、ジアルジア症2例、侵襲性インフルエンザ菌感染症3例
侵襲性肺炎球菌感染症47例、水痘（入院例に限る）7例、梅毒79例、
播種性クリプトコックス症3例、破傷風1例、百日咳72例、風しん4例、麻しん13例、
薬剤耐性アシネトバクター感染症1例

報告遅れ：細菌性赤痢2例、E型肝炎2例、つつが虫病1例、マラリア1例、レジオネラ症3例
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症13例、急性脳炎1例、
劇症型溶血性レンサ球菌感染症7例、水痘（入院例に限る）4例、梅毒41例、
百日咳41例、麻しん6例

★注目すべき感染症 (国立感染症研究所 IDWR2018年第16号より)

◆ 麻しん 2018年第1～16週 (2018年4月25日現在)

麻しんは高熱、全身の発疹、カタル症状を特徴とし、空気感染を主たる感染経路とする感染力の非常に強いウイルス感染症である。肺炎、脳炎等を合併して死亡することもあるが、事前に予防接種を受けることで予防が可能である。日本は現在、2015年3月に国際的な認定を受けた国内における麻しんの排除状態を維持することを麻しん対策の目標にしている。しかし海外では、多くの国で麻しんが流行しており、わが国では近年、タイ、フィリピン、インドネシア等の東南アジア、イタリア等の欧州からの麻しんウイルスの輸入が継続して報告されている。2018年3月20日、沖縄県内で海外からの旅行者の1人が麻しんと診断された。以後、現時点まで、沖縄県内の広範囲から麻しん患者の報告が続いている。また、その後、沖縄県内で感染した患者が、他県において発症しており、厚生労働省からも注意喚起がなされた。本稿は、主に感染症発生動向調査に基づく国内の麻しんの疫学状況に関する直近の情報を提供することと、注意喚起を目的としている。

2018年第1～16週に診断された麻しん症例数（2018年4月25日現在）は86例であり、うち、検査診断例が73例（85%）であった（麻しん：46例、修飾麻しん：27例）。男性50例、女性36例であり、年齢中央値は31歳（範囲0～55歳）であった。都道府県別の報告数は、沖縄県59例、東京都8例、埼玉県、愛知県各5例、茨城県3例、神奈川県、山梨県、静岡県、大阪府、山口県、福岡県各1例であった。推定感染地域は国内が69例、国外が9例（タイ5例、インド、ネパール、バングラデシュ、フィリピン各1例）、不詳7例、不明1例と報告されていた。ワクチン接種歴については、接種歴無しが20例（23%）、不明が46例（53%）、1回が11例（13%）、2回が9例（10%）であった。2回接種歴有りの9例のうち6例は軽症で非典型的な麻しん（修飾麻しん）であることが分かっている。接種歴無しの20例は全例が典型的な麻しんで、うち15例は検査診断例であった。全報告のうち22症例から検出された麻しんウイルスに関する情報が病原体検出情報に報告され、その遺伝子型の内訳はD8型19例（86%）、B3型3例（14%）であった。病原体検出情報において渡航歴の記載がある10例の渡航先は、D8型はタイ7例、ネパール1例、B3型はバングラデシュ1例、フィリピン1例であった（2018年5月6日現在）。

麻しんは空気感染をし、強い感染力をもつ。また、しばしば合併症を併発し、年齢にかかわらず命に関わることもある重篤な感染症である。また、その感染拡大防止のためには、個々の予防と集団免疫を維持するための麻しん風しん混合ワクチンの2回の定期接種の徹底に加えて、感染者の早期探知と迅速な対応も欠かせない。発熱・発疹等、麻しんが疑われる症状が見られた場合には、感染伝播を防ぐために事前に医療機関に連絡してから受診することが重要である。医療関係者が発熱・発疹等患者に対して聞き取りを行う場合には、麻しんの可能性を考慮し、渡航歴や発熱・発疹患者との接触歴、予防接種歴などの確認を丁寧に行うことが重要である。その際に麻しんの流行国に関する情報は有用である。

さらに、日本国内に海外から麻しんウイルスが輸入されないために、海外渡航者に対しては、ワクチン接種歴等を確認の上、必要に応じて渡航前にワクチン接種が行われることが推奨される。帰国後の海外渡航者に対しては、2週間程度は麻しん発症の可能性も考慮して健康状態に注意することが重要である。また、空港・観光地・駅・商業施設など多くの人が往来する場所・施設などでは感染のリスクがあると認識しておく必要がある。同時に、最初に麻しんの患者と接する可能性が高いのは医療関係者であることから、事前の予防策として、事務職を含むあらゆる医療関係者においては、1歳以上で2回の麻しん風しん混合ワクチン接種歴の記録による確認と、必要な回数を受けていない場合のワクチン接種が重要であることを改めて強調したい。また、麻しんと診断した場合には、感染症法に基づく届出を速やかに行うこと、麻しんの感染力の強さに鑑みた医療機関内における感染対策を実施することが重要である。

.....

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第19週 平成30年5月7日(月)～平成30年5月13日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第19週							計	前週	全国(18週)	高知県(19週末累計)		全国(18週末累計)	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	H30/1/1～H30/5/13				H30/1/1～H30/5/6			
インフルエンザ	インフルエンザ			2	3					5 (0.10)	5 (0.10)	3,009 (0.61)	20,838 (434.13)	1,750,289 (354.17)		
小児科	咽頭結核熱							1	6	7 (0.23)	(0.00)	1,016 (0.33)	79 (2.63)	17,022 (5.40)		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1	3	30	1	5	10			50 (1.67)	41 (1.37)	4,520 (1.45)	773 (25.77)	131,124 (41.56)		
	感染性胃腸炎	11	51	46	14	9	17			148 (4.93)	122 (4.07)	11,560 (3.70)	2,181 (72.70)	279,433 (88.57)		
	水痘		1	5	1		2			9 (0.30)	6 (0.20)	893 (0.29)	88 (2.93)	16,471 (5.22)		
	手足口病				3	2		2		7 (0.23)	6 (0.20)	894 (0.29)	175 (5.83)	10,362 (3.28)		
	伝染性紅斑		1							1 (0.03)	(0.00)	292 (0.09)	18 (0.60)	4,395 (1.39)		
	突発性発疹	1	6	9	1	2				19 (0.63)	14 (0.47)	1,080 (0.35)	163 (5.43)	21,077 (6.68)		
	ヘルパンギーナ				1			1		2 (0.07)	1 (0.03)	110 (0.04)	10 (0.33)	1,079 (0.34)		
	流行性耳下腺炎							1		1 (0.03)	1 (0.03)	361 (0.12)	16 (0.53)	8,182 (2.59)		
	RSウイルス感染症		4					1		5 (0.17)	1 (0.03)	703 (0.23)	177 (5.90)	22,550 (7.15)		
眼科	急性出血性結核炎									(0.00)	(0.00)	15 (0.02)	(0.00)	227 (0.33)		
	流行性角結核炎			1						1 (0.33)	(0.00)	364 (0.53)	12 (4.00)	8,070 (11.58)		
基幹	細菌性髄膜炎									()	(0.00)	8 (0.02)	2 (0.25)	164 (0.34)		
	無菌性髄膜炎									()	(0.00)	6 (0.01)	1 (0.13)	196 (0.41)		
	マイコプラズマ肺炎			2						2 (0.25)	(0.00)	39 (0.08)	28 (3.50)	1,378 (2.88)		
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)			1						1 (0.13)	(0.00)	2 (0.00)	11 (1.38)	69 (0.14)		
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)			1						1 (0.13)	(0.00)	174 (0.36)	20 (2.50)	2,328 (4.86)		
計(小児科定点当たり人数)	13 (6.50)	68 (9.61)	101 (8.64)	20 (6.66)	17 (8.50)	40 (8.00)	259 (8.39)			25,046	24,592 (556.78)	2,274,416				
前週(小児科定点当たり人数)	16 (8.00)	57 (8.00)	86 (7.77)	14 (4.66)	11 (5.25)	13 (2.60)		197 (6.50)								

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関) 定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第19週							計	前週	全国(18週)	高知県(19週末累計)		全国(18週末累計)	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	H30/1/1～H30/5/13				H30/1/1～H30/5/6			
インフルエンザ	インフルエンザ			0.18	0.19					0.10	0.10	0.61	434.13	354.17		
小児科	咽頭結核熱							0.50	1.20	0.23	0.00	0.33	2.63	5.40		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.50	0.43	2.73	0.33	2.50	2.00			1.67	1.37	1.45	25.77	41.56		
	感染性胃腸炎	5.50	7.29	4.18	4.67	4.50	3.40			4.93	4.07	3.70	72.70	88.57		
	水痘		0.14	0.45	0.33		0.40			0.30	0.20	0.29	2.93	5.22		
	手足口病				0.27	0.67		0.40		0.23	0.20	0.29	5.83	3.28		
	伝染性紅斑		0.14							0.03	0.00	0.09	0.60	1.39		
	突発性発疹	0.50	0.86	0.82	0.33	1.00				0.63	0.47	0.35	5.43	6.68		
	ヘルパンギーナ				0.33			0.20		0.07	0.03	0.04	0.33	0.34		
	流行性耳下腺炎								0.20	0.03	0.03	0.12	0.53	2.59		
	RSウイルス感染症		0.57							0.17	0.03	0.23	5.90	7.15		
眼科	急性出血性結核炎									0.00	0.00	0.02	0.00	0.33		
	流行性角結核炎			1.00						0.33	0.00	0.53	4.00	11.58		
基幹	細菌性髄膜炎									0.00	0.00	0.02	0.25	0.34		
	無菌性髄膜炎									0.00	0.00	0.01	0.13	0.41		
	マイコプラズマ肺炎			0.40						0.25	0.00	0.08	3.50	2.88		
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)			0.20						0.13	0.00		1.38	0.14		
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)			0.20						0.13	0.00	0.36	2.50	4.86		
計(小児科定点当たり人数)	6.50	9.61	8.64	6.66	8.50	8.00	8.39					556.78				
前週(小児科定点当たり人数)	8.00	8.00	7.77	4.66	5.25	2.60		6.50								

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎1階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869

この情報に記載のデータは2018年5月14日現在の情報により作成しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがありますが、その場合週報上にて訂正させていただきます。